

高齢者の居場所 在り方は

静大生 松崎で研究発表

静岡大農学部の学生らがこのほど、松崎町の高齢者らでつくる企業組合「あい村蔵ら」(青森千枝美代表)による高齢者の居場所づくりに関する取り組みを題材にした論文を発表した。プロジェクトリーダーの修士2年中込光穂さん(23)が同町を訪れ、青森代表ら関係者約30人に研究成果の報告を行った。



研究結果を報告する中込さん
＝松崎町宮内の町環境改善センター

ン学研究室(松本和浩教授)の学生15人は、2018年~22年に定期的に施設を訪れ、アンケートや聞き取り調査を実施。論文

は、客観的評価が高いという査読付き論文誌に掲載された。
あい村蔵らは、従業員自ら出

資して経営に携わる「ワーカーズ・コレクティブ」で運営し、手芸品の展示販売や弁当配達を行う。中込さんはコロナ禍における休業後も施設が再開できた理由を述べ、「物理的な居場所の確保だけではなく、心理的な居場所として機能することが重要になる」と分析した。

青森代表(88)は「蔵らのドラマができたような気持ちでうれしい。今後もまちづくりの手伝いをしていきたい」と話した。

